



城北小だより

11月号

令和5年10月31日
さいたま市立城北小学校
TEL 048-757-5391
児童数697名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

心を潤す4つの言葉

校長 中村 篤

今年早い時期からインフルエンザが発生し、全国で流行の兆しが見えています。本校も例外ではなく、インフルエンザや発熱・体調不良による欠席者が多く見られるようになりました。先日も4学年の1学級を学級閉鎖としたところです。インフルエンザは体の免疫力が低下したときにかかりやすくなります。手洗い・うがいもちろん大切ですが、普段から体調を整えるためにも規則正しい生活習慣と十分な休養、バランスのよい食事をとれるよう、ご家庭におかれましてもご協力をお願いいたします。

さて、私は毎朝、登校してくる児童に正門であいさつをしています。子どもたちがワイワイと元気に登校する姿が私の活力となるため、苦に感じたことは一度もありません。しかし、昨年度はさびしい気持ちになることが多かったように思います。私があいさつをしても、多くの子は目を合わさず無言で目の前を通り過ぎていきます。また、私の前を無言で通り過ぎた後、向こう側にいる友人に「おはよう♪」などとされた日には涙が出る思いです。しかし、私は「あいさつのあふれる学校づくり」を一つの目標として掲げていますので、ここでめげるわけにはいきません。全員にあいさつをするつもりで、一人ひとりの顔を見ながら毎朝何百回も声を掛け続けました。校内でも同じ子と何度すれ違ってもその都度あいさつをするように心掛け、全教職員も意識して積極的にあいさつをするようにしました。代表委員の児童による朝のあいさつ運動も展開しました。そして今年度、その成果かどうかはわかりませんが、少しずつ元気なあいさつが返ってくるようになりました。会釈してくれる子も増え、子どもたちは昨年度に比べると何十倍、何百倍ものあいさつができるようになってきています。その姿からさらに活力をもらうことができ、あいさつの大切さを実感しています。

また、子ども同士のトラブルで、担任が指導をしている場面に立ち会うことがあります。指導の中で、次のようなやり取りがよく見られます。担任「何か言うことはないの?」、児童「…」、担任「悪いことをしたら何て言うの?」、児童「…」、担任「ごめんなさいでしょ?」、児童「ごめんなさい…」。

児童はなぜ「ごめんなさい」がすぐに出てこないのでしょうか。
①謝ることに納得がいない、②悪いことをしたという認識がない、③プライドが傷つく、恥ずかしい、④謝らなくても許されてきた、などいろいろな理由が考えられますが、多くは③④だと思っています。

11月の生活目標は「心を潤す4つの言葉を使おう」です。さいたま市では、学校、家庭、地域社会において、コミュニケーションの基礎となる『心を潤す4つの言葉』「おはようございます」「はい」「ありがとうございます」「ごめんなさい」を推進しています。ちなみに先日、娘から「お父さんは何かやってもらっても『ありがとう』って言わないよね」と言われてしまいました。「そんなはずはない(怒)」と反論してみたものの、そうかもしれないと反省をしました。子どもは大人をよく見ています。まずは、我々大人がしっかりとこの4つの言葉を使っていくことで、子どもたちも恥ずかしがらず素直に使えるようになると思います。

「城北小の子どもはしっかりとあいさつができる」と胸を張って言えるような、そんな児童を学校、家庭、地域で協力しながら育成していきましょう。

